

令和7年3月30日

瀬戸内市議会議長

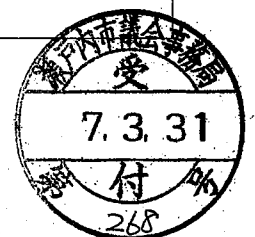
小谷 和志 様

瀬戸内市議会議員 川勝 浩子

政務活動費研修報告書

政務活動費を使用して、次のとおり研修活動をしましたので、その結果を報告します。

期 間	令和7年7月10日 ～ 令和7年7月11日
研修会名	全国地方議会サミット2024「非常事態への備え これからの議会」
開催場所	早稲田大学国際会議場 井深大記念ホール
研修目的・ 内容	自治体に取り組むべき非常事態への備えを学ぶため 一日目 「生活を支える強い地域を議会がつくる」 「能登半島地震被災地の議会からの報告」 「熊本地震の経験と自治体間支援の現場から」 「能登半島地震と珠洲市の状況と対応」 「防災DXの最前線と今後の展開」 「災害時におけるドローン・人工衛星など最新テクノロジー活用の可能性」 「東日本大震災の経験から」 二日目 「非常事態への備えと議会の対応・役割」 「デジタル・生成AIを活かす」 「議会改革の最新トレンドとトピックス」



所 感

- * 今回のサミットは、実際に災害に遭われた自治体の議員の方の生の声を聞かせていただき、いろいろと勉強になった。
- * 輪島市議会・珠洲市議会・能登町議会より、復興中のなか、議員の方に出席していただき、現状を伺った。自らも身近な方を亡くされている中でも消防団として活動されたとの話に、胸を打たれた。
- * 災害は必ずくる。覚悟をもって準備すべき。どこまで最大最悪の状況を想定できるか。また日頃の準備が大切。
- * 普段できてないことは、いざという時にできない。図上訓練で集まる日にちだけ決めて、集まってから状況設定しての訓練など、リアルに近い訓練が必要だと思った。
- * 熊本市の話では、周辺自治体より仮設トイレ、トイレトレーラーの支援はとても助かったと言われた。上下水道が使えない状況で、トイレは2日目から悲惨な状況になる。それによりトイレに行かないよう水分摂取を控えるようになり、体調を崩す要因になる。トイレの問題は重要。トイレトレーラーの導入は必要だと感じた。
- * ドローンによる空撮と物資搬送を当たり前にとの話もあった。平時の撮影画像があって初めて、災害時との比較ができる。瀬戸内市のドローンの活用を確認し、災害時の対応ができるようにしなければと思った。